地域情報紙
[大森まちづくりカフェ]

第89号
2026年ふゆ号

1面特集：
大森地酒魚王
オオモリジザケ
ウォーキング



2面：大森の地震

大森に残る、女性たちの学びの記憶

帝国女子医学専門学校

GENIUS LOCI: OOMORI 大森の地霊　vol.89

地域にはひとのいとなみが土地の記憶（地霊）として残っています。今回は、約100年前、大森で始まった女性たちの学びの物語です。（文＝クラカタヒロシ）

大森に残る、女性たちの学びの記憶

大森に生まれた、女性たちの学びの場

大森の東邦大学キャンパスに、戦前から残る建物がある。医学部本館。この建物の歴史をたどると、この地に生まれた女性たちの学びの場へと行き着く。

東邦大学の歴史が始まったのは、1925（大正14）年。大森に開校した「帝国女子医学専門学校」がその原点だ。創立したのは、ともに医師だった額田豊・晉兄弟。兄の豊はドイツ留学中、女性たちが科学的な知識を身につけ、それを日々の暮らしに生かす姿を目にする。「日本でも、女性が科学を学ぶ場を」。その思いが、やがて大森で形になっていく。

当時、女性が医学を専門的に学べる場は、まだごく限られていた。額田兄弟は私財を投じ、女性のための医学専門学校を開校。1927（昭和2）年には薬学科を併設し、さらに理学へと学びの領域を広げていった。

大森に、女性たちが自然科学を学ぶ場所が生まれた。



▲東邦大学医学部本館（写真提供＝東邦大学）

①現在

戦時下の大森で学んだ女性たち

時代は少しずつ、戦争へと向かっていく。1938（昭和13）年に国家総動員法が公布されると、学校生活にも戦争の影が色濃くなっていった。学生たちは勤労奉仕として、長期休暇中に清掃や土木作業などに従事するようになる。

一方、1941（昭和16）年には理学専門学校（現在の理学部）の設立が認可された。男性が次々と軍へ動員されるなか、科学技術を担う人材として、女性への理系教育が求められるようになったことも、その背景にあった。

そんな時代に、大森で薬学を学んでいた一人の女子学生がいる。後に戦後を代表する詩人の一人となる、茨木のり子だ。「わたしが一番きれいだったとき」「自分の感受性くらい」などの作品で知られ、2026（令和8）年は生誕100年、没後20年にあたる。

『茨木のり子の肖像』によれば、茨木は1943（昭和18）年、帝国女子医学薬学専門学校の薬学科に入学。1945（昭和20）年になると医学系の女子専門学校にも動員がかかり、世田谷区上馬にあった海軍関係の薬品製造工場に泊まり込みで勤務するようになったという。

東京の空にはB-29が来襲し、空襲警報が鳴る日々。インタビュー集『二十歳のころ』で、茨木は当時のことを振り返っている。

「もう嫌になっちゃって、いいや、ここで死んでもいいから、みんなと一緒になんか防空壕に入るまいと思ってね、寝ていたことがあります笑。」

そして、もし爆弾で死んだとしても、「これは自分の死ではないな」「自分の死を死ぬってことじゃないな」と思ったという。

戦時下の日常に身を置きながら、自分自身の生や死を見つめていた19歳の茨木。その言葉からは、歴史の年表だけでは見えてこない、一人の若者の姿が浮かんでくる。

終戦後、茨木はいったん郷里へ戻った。しかし、薬学の道を途中で放棄するようでは、これから進みたい文学の道も貫けないのではないかと父に諭され、秋には再び上京している。後年、戦時中から終戦直後にかけての自分を振り返り、それまで信じていた価値観が一変していくなかで、「せめて一年ぐらいは、自分でもう少し考えとけば良かった」と語っている。

茨木が薬学専門学校を卒業したのは、終戦翌年の1946（昭和21）年のことだった。

▶空襲直後の学校周辺。焼け残った本館が奥に見える。（1945年）（額田記念東邦大学資料室所蔵）

②戦時下

戦

今も大森に残る建物がある。1929（昭和4）年に建てられた、医学部本館だ。戦火によってキャンパスの多くの建物が失われるなか、本館は焼失を免れた。戦前から戦中、そして戦後へ。時代が大きく移り変わるなか、この建物は大森の地に残り続け、今も大学の施設として使われている。

ここを、かつての学生たちも歩いたのだろうか。

約100年前、女性たちのための学びの場として始まったこの場所。時代を経て、現在は男女がともに学ぶ大学となり、新しい世代の学生たちがここで学んでいる。

人は変わり、時代も変わる。それでも、この場所では「学ぶ」という営みが受け継がれてきた。

建物が残るということは、ただ昔の姿を残すことではない。この場所で繰り返されてきた人々の営みを、次の時代へ伝えていくことなのかもしれない。■

建物が伝える、土地の記憶



③竣工当時

▲昭和4年の竣工式（額田記念東邦大学資料室所蔵）

【参考文献】
・後藤正治『清冽 詩人茨木のり子の肖像』中央公論新社、2010年
・立花隆＋東京大学教養学部立花隆ゼミ『二十歳のエスキース 1937―1958―立花ゼミ「調べて書く」共同製作』新潮文庫、2001年
【参考資料】
・額田記念東邦大学資料室「戦時下の理系女子学生」（2020年度企画展）
https://www.toho-u.ac.jp/archives/action/2020kidaku.html

大森好評！九星3カ月占い

2026年11月～2027年1月

高田紫央先生●大田区在住。風水・家相・引越し・方位・恋愛・仕事・悩み相談受付中

○…ラッキースポット、●…ラッキーフード
☆…ラッキーカラー、◆…ラッキーアイテム

一白水星
11月 秋の実りを楽しむとき。お酒や旬の食べ物で気分も運もUP◆ジュエリー
12月 転換期。今年の振り返りと来年の計画をしっかりと●すき焼き
1月 インスピレーションに恵まれるひと月。アイディアは即メモを○劇場

二黒土星
11月 思いがけない出来事がありそう。スケジュールにゆとりを☆ブラウン
12月 これまでの努力が評価されるとき。達成感を味わって◆キャンドル
1月 集中できるとき。趣味や勉強に没頭する時間が幸せ●豆腐

三碧木星
11月 表現力が高まるとき。アートや音楽にチャレンジしてみて○美術館
12月 ひと足お先にお休みモード。一人のんびりクリスマスも吉☆ホワイト
1月 すぐには成果が出ないかも。あせらず気長に継続あるのみ◆エプロン

四緑木星
11月 運を貯めるとき。バスタイムや温泉でエネルギーをチャージ●割烹
12月 人の役に立つように心がけると自分に運が向いてくる巡りのとき○和室
1月 開運期。目覚ましい活躍ぶりが注目される嬉しい日々☆レッド

五黄土星
11月 粘り強くがんばれるとき。地道な積み重ねがやがて大きな力に☆オレンジ
12月 物事がスピード展開。思い切った決断と行動で運をつかむ◆スケジュール帳
1月 新年早々うれしい知らせも。人とのつながりを大切にして吉●鶏麦

六白金星
11月 元気いっぱい活躍できるとき。早起きすると更に開運◆スマートウォッチ
12月 よい縁に恵まれるとき。人の紹介や偶然の出会いに注目して☆グリーン
1月 健康管理が大切な月。暴飲暴食や持病の再発に注意を○トイレ

七赤金星
11月 幸運だが外出が多く消耗しがち。睡眠でパワーをチャージ●りんご
12月 デトックス効果が高いとき。食生活の見直しや年末の大掃除を◆クリーナー
1月 行動力がアップするとき。お正月は初詣をして心願成就○神社

八白土星
11月 ひとりよがりが出そう。周囲に支えられている感謝を伝えて☆イエロー
12月 仕事運好調。ラストスパートでぐんぐん伸びて今年の目標を達成○役所
1月 金運に恵まれ副業や臨時収入でホクホク。楽しんで使って●親子丼

九紫火星
11月 強運。上司や先輩が助けてくれる。ありがたく頼って◆スポーツシューズ
12月 社好運好調。うっかり毒舌をふるい過ぎないよう注意☆ゴールド
1月 変化を感じるとき。身の回りの小さな不用品から片づけを○スキー場

●九星の出し方
❶（昭和または平成で）生まれた年の数字を足して、ひとケタにする。
❷12もしくは3から、❶で出した数字をひく。
例）昭和51年生まれ 5+1=6
12−6=6（六白金星）
※1/1～2/3までに生まれた人は、前年生まれとみなして計算します。

2面のご案内

★ひとのいとなみ
現地で感じることのできる地霊（ゲニウス・ロキ）。大森というまちをかたちづくってきたひとのいとなみに迫ります。あわせて、読者の目線からの「口コミの紙面化」もめざします。

vol.88 2026年8月 台地と坂の風景 ［大森・馬込エリアに息づく個性豊かな坂の風景］
vol.87 2026年5月 溢れる相撲愛、四股をふんだ文士たち ［「相撲」に情熱を傾けてきた人々］
vol.86 2026年2月 祝・開業150年 大森に駅がうまれた 駅から広がった、まちのかたち ［大森のまちの記憶を改めてたどる］
vol.85 2025年11月 移ろいゆく銭湯の風景 ［今もある銭湯と、かつてあった銭湯の記憶］

バックナンバーはウェブで！ www.oomori-cafe.com

3面： ちいきのちから

ファーストリーチ プロジェクト

困りごとを抱える人に 最初の、そして最高の 支援を

ちいきのちから

目まぐるしく変わるまちの<今>を紹介。

まちの最新情報はウェブで！

www.oomori-cafe.com

大森の子どもたちが映画づくりに挑戦するクラウドファンディング実施中

2026年11月26日（木）まで

大森駅開業150年を記念し、山王小学校の6年生が大森海苔や大森貝塚を題材に短編映画を制作。地域の歴史や文化を子どもたちの視点で描く試み。実現に向けたクラウドファンディングを11月26日まで実施中！

主催●大森本場乾海苔問屋協同組合

大田区制80周年morimoriスマイルフェスタ

2027年1月31日（日）
@大田区大森北四丁目複合施設（スマイル大森）

赤ちゃんから高齢者までをサポートする様々な施設や男女平等推進センターが入った大森北四丁目複合施設「スマイル大森」をつかった地域イベント。コーラスや演奏などの発表や、展示・販売、ワークショップなどの体験コーナーなど、子どもから大人まで楽しめる一日に。

問合先●morimoriスマイルフェスタ実行委員会

2021年、大田区内のこども食堂実施団体やNPO法人などの有志6名が立ち上げた「ファーストリーチプロジェクト」。困りごとを社会資源・支援につなげ、誰もが自分らしく生きられる地域づくりを目指して活動する。メンバーの近藤さん、坂田さん、岡さんに伺った。（取材・文=杉山由紀）

ちいきのちから［ちいきのちから］

profile 090 ファーストリーチプロジェクト



シングルファミリー応援フェスタで開催された、フィナーレコンサート（写真提供すべて=ファーストリーチプロジェクト）

困りごとを抱える人に 最初の、そして最高の支援を

イベント告知

- ●2026年11月3日（火・祝）「シングルファミリー応援フェスタ」をエセナおおたで開催
- ●2027年1月 映画「五月の雨」上映と交流会実施予定
- ●毎月第3日曜日午後「シングルマザーのためのソルカフェ」をパシオンTOKYOで開催

コロナ禍で表面化した社会問題

2020年からのコロナ禍では、特に社会的に弱い立場にある非正規労働者や女性が大きな影響を受けた。地域の居場所として機能する「こども食堂」にも、女性や子どもから困りごとの相談が増えたという。複雑な問題が絡むものも多く、スタッフの負担が大きくなっていた。

「当事者も大変、相談を受ける子ども食堂の現場も大変。2021年コロナ禍で困窮する女性への緊急支援策として、内閣府の交付金が発表されたのを機に有志が集まった。メンバーは、全国に広がったこども食堂の草分けとして知られる「ともしびatだんだん」近藤博子さん、「おおたラーメンこども食堂」武井恵美子さん、「ジェンダー平等Labota」坂田静香さんと東香織さん（現在は岡智子さん、「おおた市民活動推進機構」中野真弓さん、原田美奈子さんの6名。

内閣府の交付金については大田区からの申請に至らなかったため、2022年度、赤い羽根共同募金「居場所を失った人への緊急活動応援助成」を受け、子ども食堂や地域の場への「入り口」になると期待しているという。

誰一人取り残さない地域づくり

更に「シングルファミリー応援フェスタ」を2023年から毎年開催している。タロット占いやメイク体験などと大人向け・子ども向けの楽しい企画とともに、相談ブースや行政などの支援情報コーナーを設けている。



支援者のための交流会の様子

「シングル」と銘打つことで安心して参加できると好評で、大田区外からを含め百名以上の参加がある。

坂田さん、岡さんによれば、エセナおおた（大田区立男女平等推進センター。ジェンダー平等Labotaが運営）にも相談員がいるが、敷居が高く相談をためらう人もいる。気軽に入れるイベント会場が、支援や交流で支援活動をする人々向けに傾聴やジェンダー研修と、交流会を実施した。

「ジェンダー問題が根底に脈々と流れているよねという認識がありました」と近藤さん。給与の男女格差、女性・母親に求められる役割等々。背景にあるジェンダー問題をともに学び相談への対応力をつけた上で、適切な支援機関につなげられることを目指した。



区民の困りごとに寄り添う支援者のための学習会＆交流会

困りごとを抱える人に同じ目線で寄り添い、エンパワーメントすることを目指す。

「困りごとを抱える人それぞれにとっての最善は何かを大切にしながら、応援できる体制を作っていきたい」と近藤さん。

「このプロジェクトは、当事者と支援者、それぞれを支援する二本立て」と坂田さん。メンバーには最終的に行政の事業となれば、活動を安定して継続できるという思いがある。

困りごとは複雑に問題が重なって簡単に解決はしない。行政・民間の多くの人の力とつながりが必要とされている。

ファースト＝最初の、そして最高の支援体制を提供できるようにしたい。

2023年度からは大田区地域力応援基金（2年間）を活用し、支援者同士の顔の見える関係づくりのための学習会を大森・蒲田ほか各地区で開催。民生委員やソーシャルワーカー、区議会議員ほか多くの参加を得て、自分たちが出来ないことも、あの人・あの団体ならば出来る、というつながりが生まれている。

DATA
ファーストリーチプロジェクト
firstreachpt@gmail.com

イベント情報・詳細は以下で！
特定非営利活動法人ジェンダー平等Labota
https://g-labota.com/

読者プレゼント

ご応募いただいた方の中から抽選で、ステキなプレゼントをお贈りします。

連続テレビ小説「ブラッサム」（NHK）モデル 宇野千代をイメージ！

CHIYO ※ビール

2026.10.1リニューアル！

Sサイズ1杯 5名様にプレゼント！

cheers!

※イメージ

※賞品は店頭で当選はがきと引き換えてください
店舗：東京∞景（トウキョウハッケイ）大田区山王2-2-7八景坂ビル3F
提供：OMORI FUN CLUB ※20歳未満の方はご応募できません
QRコード読み取りでGoogleフォームからも応募できます
※2027年2月末日当日消印有効。当選者の発表は当選はがきの発送をもってかえさせていただきます。

［応募方法］はがき、Eメールまたはフォームで、住所・氏名・年代（例：40代）・職業・電話番号・本紙を入手したところ・広告/記事へのご意見、ご感想・号数とご希望のプレゼント名を明記してお送りください。
宛先：大森まちづくりカフェ プレゼント係
〒143-0023 大田区山王3-27-6　office@oomori-cafe.com
※お寄せいただいた皆様の個人情報は企画者で厳重に管理し、当選のご連絡、また事前に許可を得た方に限りキャンペーン等のご連絡に使用させていただきます。

3面のご案内

★むすびつき
地域をベースに活動を展開する団体に注目。活動に携わるひとたちの思いに迫ります。参考にしたいステキな活動であれば、その範囲は大森にとどまりません。「地域のちから」ここにあり！

- vol.88 2026年8月 平和島まちづくりプロジェクト［公民連携による協働型まちづくり］
- vol.87 2026年5月 学び舎トーカ（大田大森キャンパス）［オルタナティブな学びの場］
- vol.86 2026年2月 地域力もりもり大森共同体［地域と公共施設をつなぐ］
- vol.85 2025年11月 ソンタキュアアンドケアサポート［美容ケアを通じて寄り添う］

バックナンバーはウェブで！ www.oomori-cafe.com

4面： ひと

中野健作 さん

文学都市・大田から全国へ 一冊を届ける

@cafeでは大森にまつわる「ひと」をクローズアップ。編集部がその素顔に迫ります。

2026年4月、大田区の文学資源を軸に、演劇やまちあるきまでを「文学」として捉え直す文芸カルチャー誌『大田文学』を創刊した中野健作さん。10月には第2号も発刊された。原点は南馬込のアパートに引っ越してきたこと。隣近所に三島由紀夫や萩原朔太郎、尾崎士郎が住んでいたと知り、近所の作家を1冊ずつ読むウェブサイト「馬込文学マラソン」を始めた。それから四半世紀。雑誌の組版を生業としてきた中野さんは、なぜ自ら雑誌を出すことになったのか。これまでの歩みとこれからの展望についてうかがった。（取材・文＝野江泰介）

文学都市・大田から全国へ 一冊を届ける

第89回 大田文学 なかの・けんさく

中野 健作さん



『大田文学』創刊号を手にする中野さん（写真：たかだあや）

@偶然の出会いから文学マラソンの始まり

山王の一角にある『大田文学』の編集部は、本棚と作業机が向かい合う小さな部屋だ。棚には記事ごとの関連書籍がぎっしりと並ぶ。創刊号の特集は、臼田坂通り沿いに住んだ6人の作家を辿る「地勢と文学」。内川を遡る紀行やAI小説、法華経の一節まで100ページに詰め込んだ。

中野さんはもともと大学の教育学部美術科を出て、教員としてキャリアをスタートさせた。漢字の成り立ちが面白いと思えば、子どもたちに夢中で教え込み、授業の時間が足りなくなる。面白いことを伝えずにはいられない性分だった。一方で、「人間関係の中で生きる教員生活が大変だった」といい、教員を辞めて選んだのはデザインの道だった。当時デザイン業界では必須だったパソコンも持っておらず、ほとんど断られた。そんな中で「文章なら書けるでしょう」とコピーライターとして拾ってくれた事務所で、写植の版下からDTP※1までを覚えていった。「自分が組んだものが印刷物になる。チラシ一枚でも感激して、最初の頃は全部取っておきました」と当時を懐かしむ。

1998（平成10）年、デザイン会社で働いていた中野さんは、都内の事務所に少しでも近いところに住もうと、横浜から引っ越すことを決めた。不動産屋から紹介されたのが南馬込のアパートだった。担当者の一言で決めた部屋は、馬込文士村のど真ん中。三島由紀夫の旧宅は「息を止めて行ける距離」にあり、萩原朔太郎や尾崎士郎の旧居も近い。「全然知らずに越してきたんです」と当時は文学への関心も薄かったという。しかし、せっかくこの場所に住んでいる縁を生かして、近くの作家を1冊ずつ読もう、と始めたのが「馬込文学マラソン」というウェブサイトだ。「分からなくても最後まで読んでいた作家を1冊ずつ読むことから始まった文学の探検は、四半世紀を経て1冊の雑誌になり、いま読者へと広がり始めている。面白いことを伝えずにはいられない中野さんの次の1冊が、どんな人の手に届くのか、楽しみにしたい。


パソコンで誌面を組む中野さん。企画から組版まで一人で作業する（写真：たかだあや）

@仕事の転機からひとり出版社に

独立後はカメラ雑誌や業界誌の組版を手がけ、最後の15年は業界誌「ニューメディア」1社の専属だった。その版元が2025年に倒産する。「若い人のほうが動きやすい。この年齢で出版社を回るのは難しいと思いました」。ならば自分で雑誌を作ろう、と決意した。はじめは数ページの小冊子のつもりが、あの人にもこの人にも書いてほしいと欲が出て、100ページの雑誌になった。ISBN※2が何かも知らないところから、書店との取引の仕組みまで一から学んだ。梅屋敷の書店「葉々社」の小谷輝之さんが開く本づくりの相談会には毎月通った。ネット上で20年来の付き合いがある椋康雄さん、山王の古書店「あんず文庫」の加賀谷敦さん、中央の「カフェ昔日の客」の関口直人さんにも相談を重ねた。「こんなのは絶対無理だよ」と厳しい意見をもらうこともあった。それでも準備を続け、2026年4月に創刊号を発行。「編集部は僕ひとりですが、皆さんの力を借りて、一緒に作ってきた感覚です」と発刊についての思いを話す。

反響は早かった。感想の手紙が届き、何十冊もまとめて買って販売してくれる人も現れた。「『大田文学』を自分の土俵にしたい」という書き手もいる。全国の書店で注文でき、北海道に住むかつての大田区民からも注文があった。雑誌の組版の仕事をしているときは、数回しか外に出ない月も多かったが、今はほぼ毎日、誰かに会っている。「最初は宣伝するのが照れくさかった。でも、これはもう自分だけのものじゃないんだと思うようになりました」と、広めていくことへの意欲を語る。

企画は第5号まで決まっている。河童の伝承、富士講と富士山、町工場の街で働きながら書いた人たち。「昭和文学が育ったのはここだと思っています。文学都市・大田を、全国に伝えていきたい」と目標を掲げている。10年先には、同じ志を持つ誰かに委ねたいとも考えているという。隣に住んでいた作家を1冊ずつ読むことから始まった文学の探検は、四半世紀を経て1冊の雑誌になり、いま読者へと広がり始めている。面白いことを伝えずにはいられない中野さんの次の1冊が、どんな人の手に届くのか、楽しみにしたい。

※1 コンピュータで印刷物のレイアウトデザインを行うこと
※2 発行される書籍を特定するために付けられる国際的な共通番号（国際標準図書番号）

4面のご案内
★ ひと
まちで出会った、頑張っているひとの素顔に迫ります。次はあなたかも…？
vol.88 2026年8月 花本(正木)采個さん 正木智之さん［菓子屋Present］
vol.87 2026年5月 北岡 健太郎さん［OMORI TRAINING CENTER 会長］
vol.86 2026年2月 長堀 紀子さん［大森駅長］
vol.85 2025年11月 村石 義樹さん［スターピレクラブ代表］
バックナンバーはウェブで！ www.oomori-cafe.com

［編集後記］■AIの進化はすさまじい。最近は自分自身で考えず、AIに考えさせることが多くなってきた。今はまだAIの回答が適切かどうか判断できるが、そのうちAIの回答は正しいはず」と思い込んでしまうのではないかと不安になる■車が飛んだ、万博の空飛ぶクルマはトローンだったが、テスラのロードスターは車体そのものがジャンプした。なんだかうれしい。（あ）

[STAFF]
Publisher/Editor in chief 鵜飼 修
Writer 野江泰介(1・4) 吉田比呂子(1) 中山良憲(1) クラカタヒロシ(2) 杉山由紀(3)
Illustrator 池田英子
DTP Operator 高道智子
Special Thanks 中村 愛 山田智士 大曽根桃子 たかだあや

大森まちづくりカフェ 第89号2026年ふゆ号
［発行］2026年11月1日（年4回 季刊）
［配布］大森を生活圏とする地域に30,000部
［発行］特定非営利活動法人大森まちづくりカフェ編集部
〒143-0023 東京都大田区山王3-27-6
email：office@oomori-cafe.com
［印刷］有限会社三平印刷所
東京都品川区大崎1-10-1 ☎03-3493-4911
次号は2027年2月1日発行予定です

DATA
大田文学
https://ootas.jp/
ウェブサイト
販売予定店舗